

第2章

水戸市の 文化財の概要



オセロ オセロは水戸市発祥のゲームです。



第2章

水戸市の文化財の概要

本市の文化財はこういったものがあるのでしょうか。第2章では、指定等文化財と未指定文化財、関連する制度に分けて、本市の文化財の概要を説明します。

1 指定等文化財

(1) 指定等文化財の概要

本市の指定等文化財は204件あります（表2-1）。

内訳として、指定文化財は有形文化財157件、無形文化財4件、民俗文化財7件、記念物31件の計199件があります。また、国選択文化財（記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財）が1件、国登録有形文化財が4件あります。なお、本市に文化財の保存技術の選定はありません。

(単位:件)

種類		国指定・選定	国選択	県指定	市指定	国登録	合計	
有形文化財	建造物	5	－	6	13	4	28	
	美術工芸品	絵画	0	－	14	9	0	23
		彫刻	1	－	9	13	0	23
		工芸品	2	－	24	20	0	46
		書跡・典籍	0	－	4	2	0	6
		古文書	0	－	0	1	0	1
		考古資料	1	－	4	10	0	15
		歴史資料	1	－	2	16	0	19
	小計	10	－	63	84	4	161	
無形文化財		0	0	0	4	0	4	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	－	0	0	0	0	
	無形の民俗文化財	0	1	3	4	0	8	
記念物	遺跡(史跡)	6	－	3	12	0	21	
	名勝地(名勝)	1	－	0	0	0	1	
	動物・植物・地質鉱物(天然記念物)	1	－	0	8	0	9	
文化的景観		0	－	－	－	－	0	
伝統的建造物群		0	－	－	－	－	0	
合計		18	1	69	112	4	204	

表2-1 指定等文化財一覧(2025(令和7)年8月現在)



(2) 国指定文化財

本市の国指定文化財は18件あります。

① 有形文化財

室町時代の建築手法を今日に伝える「薬王院本堂」等の建造物が5件、我が国の太子像の優品である「木造聖徳太子立像」として彫刻が1件、徳川家康から初代水戸藩主徳川頼房に譲られた「太刀（銘則包作）附糸巻太刀拵」等の工芸品が2件、一橋徳川家に伝来する文書記録、書画・典籍、器物、写真類4,715点を一括指定した「一橋徳川家関係資料」として歴史資料が1件、ほか考古資料が1件指定されています。有形文化財10件のうち、建造物が5件を占めており、建造物の割合が高い点が特徴です。



木造聖徳太子立像（善重寺所蔵、国指定重要文化財）

鎌倉時代末期に制作されたもので、中世に数多く制作された聖徳太子像の中でも優品として知られています。



太刀（銘則包作）附糸巻太刀拵（東照宮所蔵／国指定重要文化財）

鎌倉時代中期の制作です。徳川頼房が父家康から拝領し、のちに水戸東照宮に奉納されました。



一橋徳川家関係資料
（茨城県立歴史館所蔵／国指定重要文化財）

一橋徳川家に伝来した資料群のうち、4,715点が国指定重要文化財に指定されています。江戸時代の政治・文化を考える上で貴重な資料です。



② 記念物

日本最大の藩校である「旧弘道館」として特別史跡が1件、我が国唯一の線刻壁画を有する八角形墳である「吉田古墳」、古代那賀郡の郡寺と正倉跡である「台渡里官衙遺跡群」等の遺跡（史跡）が5件、いわゆる日本三公園の一つ「常磐公園」（偕楽園）として名勝地（名勝）が1件（常磐公園は史跡・名勝の二重指定）、樹高35メートルにもなるオハツキイチョウの巨木「白旗山八幡宮のオハツキイチョウ」として植物・動物・地質鉱物（天然記念物）が1件指定されています。

記念物8件のうち、特別史跡・史跡が6件を占めており、史跡の割合が高い点が特徴です。特に弘道館・偕楽園は全国的にも著名で、本市はもとより茨城県を代表する文化財と言えます。

(3) 国選択文化財（記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財）

県指定無形民俗文化財として指定されている「大串のささらばやし」と「大野のみろくばやし」を一括し、「大串のささらと大野のみろく」として1件選択されています。

ともに近世以来、大串稲荷神社の^{おおくし}出社祭礼（1936（昭和11）年が最後）に^{おおの}供奉していた歴史を有しており、棒の先につけた^{ししがしら}獅子頭又は^{はやし}みろく人形がお囃子にあわせて踊る珍しい民俗文化能です。



旧弘道館(三の丸／国指定特別史跡)

1841(天保12)年に水戸藩主徳川斉昭が創設した藩校です。藩校最大の面積を誇り、様々な学問を学べる総合大学のような性格を有していました。



序章

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

資料



常磐公園(偕楽園)(常磐町外/国指定史跡及び名勝)

1842(天保13)年に徳川齊昭の「一弛一弛(緊張とリラックス)」の理念のもと、弘道館の学び(一弛)の修養(一弛)の端として整備され、領民にも広く開放されました。



白旗山八幡宮のおハツキイチョウ
(八幡町/国指定天然記念物)

水戸八幡宮社殿東側にあります。樹齢は推定400~600年で、おハツキイチョウとしては最大級の巨木です。



大串のささら(上)と大野のみろく(下)
(大串町・下大野町/国選択無形民俗文化財)

底なし屋台の中で棒先の獅子頭や人形を操る民俗芸能です。江戸時代、大串稻荷神社の出社祭礼に供奉し、水戸城下を練り歩きました。



(4) 県指定文化財

本市の県指定文化財は69件あります。民俗文化財及び記念物は近世の所産になる文化財が多い点が特徴です。

① 有形文化財

近世末期の庄屋の居宅である「綿引家住宅（主屋・倉）」等の建造物が6件、室町時代の仏教絵画の優品である「絹本著色 弁財天画像」等の絵画が14件、平安末期の和様仏像である「木造 薬師如来像」等の彫刻が9件、稀少な灌頂法具が一括で残る「灌頂用具」等の工芸品が24件、六地藏寺に伝わる典籍892部・文書407点を一括指定した「六地藏寺所蔵典籍・文書」等の書跡が4件、常陸大宮市小野天神前遺跡の再葬墓から出土した「小野天神前遺跡出土土器」等の考古資料が4件、徳川光圀の60歳前後の様子を伝える「徳川光圀書翰集」等の歴史資料が2件指定されています。

69件のうち、仏教美術が30件を占めており、仏教関連の優品が多い点が特徴です。また、必ずしも本市ゆかりの文化財ではないものの、県立歴史館など、県立施設の所蔵で、県内各地ゆかりの指定文化財があるという特徴もあります。

② 民俗文化財

水戸藩御用神楽であった「水戸大神楽」など、無形の民俗文化財が3件指定されています。

③ 記念物

徳川光圀が工事を命じた近世初期の暗渠水道「笠原水道」など、遺跡（史跡）が3件指定されています。

(5) 市指定文化財

本市の市指定文化財は112件あります。近世の所産になる文化財が比較的多い一方、原始・古代・中世の文化財も指定されています。

① 有形文化財

弘道館の武芸を今に伝える「水戸東武館（道場・正門附塀）」等の建造物が13件、水戸の洋画家第1号である五百城文哉の代表作「絹本水彩 晃嶺群芳之図 五百城文哉筆」等の絵画が9件、元禄年間の石造仏像の優品である「石造 金剛力士立像」等の彫刻が13件、徳川齊昭が命じて作らせた戦車である「安神車」等の工芸品が20件、中世過去帳の著名な事例である「傳燈山和光院過去帳」等の典籍が2件、常陸国における南北朝時代の動向を伝える資料である「紙本墨書 足利氏満感状」として古文書が1件、古代那賀郡家で使用されていた公印と考えられる「台渡里官衙遺跡出土銅印」等の考古資料が10件、幕末水戸藩の貴重な記録である「石河明善日記 附学制略1部 弘道館教育に関する意見書1部」等の歴史資料が16件指定されています。

「鹿島神社本殿・拝殿・中門及び瑞垣（附設計図9点）」や「慷慨淋漓の碑拓本附台石」など、近現代の文化財指定が増加しつつあることが注目されます。



六地藏寺所蔵典籍・文書(六地藏寺所蔵/県指定書跡)

六地藏寺三世恵範^{えはん}の書写・著述を中心にした貴重な典籍・文書群です。徳川光圀が手厚い保護を加えたことでも知られています。



小野天神前遺跡出土土器(茨城県立歴史館所蔵/県指定考古資料)

常陸大宮市小野天神前遺跡の再葬墓から出土した人面壺形土器ほか19点が指定されています。弥生時代の心性を知る手がかりとなる貴重な資料です。



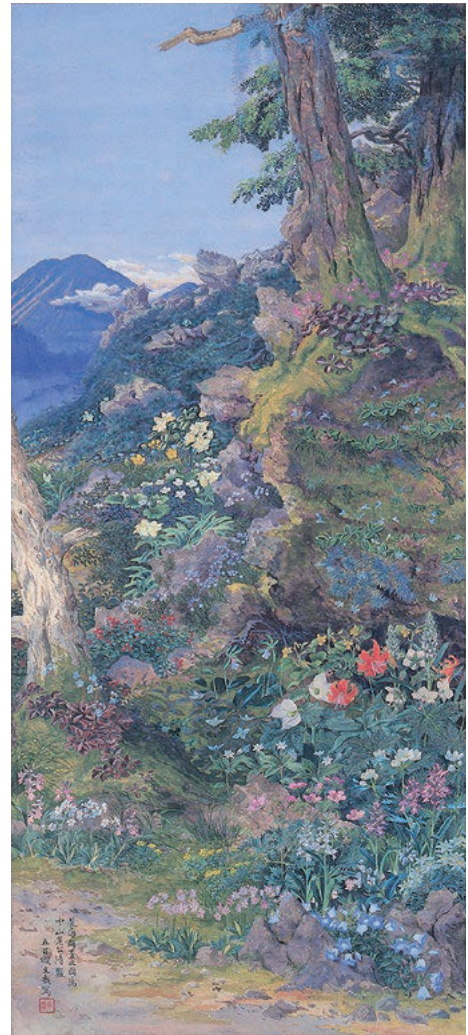
水戸東武館(道場・正門附塀)(北見町/市指定建造物)

戦火により焼失した道場を1953(昭和28)年に再建したものです。随所に意匠を凝らした、弘道館の武芸活動を継承するにふさわしい重厚な建造物です。2015(平成27)年に現在地に移築しました。



安神車(東照宮所蔵/市指定工芸品)

鉄板で周囲を囲み、中から小銃を発射します。車に乗せて牛に曳かせ、人が助力して進退できるよう考案された戦車です。



**絹本着色 見嶺群芳之図 五百城文哉筆
(市立博物館所蔵/市指定絵画)**

左上に日光男体山が眺望され、樹幹下の岸壁には20種類の高山植物の草花が咲き乱れます。不可思議で魅力的な世界が表現された作品です。

序章

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

資料



② 無形文化財

水戸藩を代表する古式泳法である「水府流水術」等が4件指定されています。

③ 民俗文化財

本市最大規模の祭礼の一つであり、浜降り神事の性格を内包する「吉田神社の秋季祭礼」等の4件が無形の民俗文化財として指定されています。

④ 記念物

徳川光圀が造営を命じた儒教式墓地である「常磐共有墓地」、酒門共有墓地等の遺跡（史跡）が12件、本市を代表する優美な樹姿の一つである「六地藏寺のシダレザクラ」等の動物・植物・地質鉱物（天然記念物）が8件指定されています。

(6) 国登録有形文化財

本市の国登録有形文化財は4件あります。

いずれも建造物で、近世の所産は、本市現存最古の茶室建築である「和田家住宅延年楼」が1件、近代の所産は、ゴシック風装飾が美しい「水戸市水道低区配水塔」等が3件登録されています。

市内には多くの近代化遺産がある一方で、登録件数が他市町村に比べ少ない傾向にあります。

(7) 埋蔵文化財

本市における周知の埋蔵文化財包蔵地（以下「埋蔵文化財包蔵地」という。）は527件あります。

埋蔵文化財包蔵地の性格別の内訳は、旧石器時代から近世までの複合遺跡である「東前原遺跡」、小原遺跡等の集落跡が158件、縄文時代から中世までの複合遺跡である「下遠田遺跡」等の包蔵地が185件、『常陸国風土記』に記載のある「大串貝塚」等の貝塚が4件、前方後方墳を含む23基の古墳群である「西原古墳群」等の古墳（群）が107件、水戸道中の一里塚である「元吉田一里塚跡」等の塚（群）が15件、古代那賀郡の郡寺に比定される「台渡里廃寺跡」等の寺院・官衙跡が4件、徳川齊昭が開設した窯跡である「七面製陶所跡」等の生産遺跡（窯跡）が19件、茨城県内に特徴的な長塁遺構の代表例である「大部平太郎屋敷跡（飯富長塁）」等の城館跡が30件、その他水道跡、火葬墓、野馬土手、庭園跡等が5件確認されています。

一般的な埋蔵文化財包蔵地の種別である集落跡、包蔵地、貝塚、古墳（群）のほか、塚（群）、寺院・官衙跡や生産遺跡（窯跡）、城館跡など、多様な種類の遺跡が分布しているのが特色です。

(単位:件)

集落跡	包蔵地	貝塚	古墳(群)	塚	寺院・官衙跡	生産遺跡(窯跡)	城館跡	水道跡	火葬墓	その他	合計
158	185	4	107	15	4	19	30	1	2	2	527

表2-2 埋蔵文化財包蔵地の種別一覧(2025(令和7)年8月現在)



水府流水術(城東／市指定無形文化財)

那珂川を臨む水戸に古くから発達した水術で、泳法はのし泳ぎを基本とします。弘道館が開館すると、武術の一科目として奨励されました。

水戸市水道低区配水塔(北見町／国登録有形文化財)

1932(昭和7)年、下市地区に水道水を供給するために建造されました。設計は後藤鶴松で、ゴシック風装飾が施された意匠が特徴的です。



吉田神社の秋季祭礼(宮内町／市指定無形民俗文化財)

10月15日に近い金～日曜日に行われる祭礼です。県内の太平洋岸に見られる浜降りの要素を含み、下市の祭礼として住民に定着しています。



西原古墳群(堀町)

西原古墳群は、4世紀から7世紀まで造営された前方後方墳1基を盟主墳とする20基以上の古墳群で、本市において発掘調査が進んでいる遺跡の一つです。



東前原遺跡(東前町)

東前原遺跡は、隣接する小原遺跡とともに土地区画整理事業により発掘調査が急速に進んでおり、古代に大規模な集落が展開したことが明らかになりました。



2 未指定文化財

(1) 未指定文化財の概要

本市では、2025（令和7）年8月現在で計4,060件の未指定文化財が確認されています。（表2-3）。

内訳として、有形文化財1,157件、無形文化財6件、民俗文化財13件、記念物641件、その他の文化財2,243件が確認されています。文化的景観、伝統的建造物群は確認されていません。

(単位:件)

類型		件数		
有形文化財	美術工芸品	建造物	49	1,157
		絵画	114	
		彫刻	280	
		工芸品	91	
		書跡・典籍	53	
		古文書	248	
		考古資料	231	
		歴史資料	91	
無形文化財		6	6	
民俗文化財	有形の民俗文化財	5	13	
	無形の民俗文化財	8		
記念物	遺跡(史跡)	616	641	
	名勝地(名勝)	11		
	動物・植物・地質鉱物(天然記念物)	14		
文化的景観		0	0	
伝統的建造物群		0	0	
その他の文化財	石造物	2,080	2,243	
	行事・イベント	8		
	特産品	21		
	戦争の記憶	8		
	民話・伝説	75		
	遊び	2		
	水戸の景観	49		
合計		4,060		

表2-3 未指定文化財の件数(2025(令和7)年8月現在)



(2) 各類型の概要

① 有形文化財

有形文化財は1,157件確認されています。内訳は、1941（昭和16）年に竣工し、内務省技師の古建築様式が見られる「茨城県護国神社社殿」等の建造物が49件、水戸出身の女性画家である櫻井雪保の晩年の名作「龍虎凶屏風」（市立博物館所蔵）等の絵画が114件、1573（元亀4）年、玉造宗幹による修造銘のある「木造十一面観音立像」（東漸寺所蔵）等の彫刻が280件、水晶製の舍利容器（骨を入れる容器）である「水晶五輪塔形舍利塔」（六地藏寺所蔵）等の工芸品が91件、徳川光圀が招いた明の禅僧・東皐心越が書いた「紙本篆書「忠」字」（祇園寺所蔵）等の書跡・典籍が53件、豊臣秀吉や明智光秀等の戦国武将の貴重な書状を集めた「戦国武将書翰集」（市立博物館寄託）等の古文書が248件、中世水戸城における神仏への奉養銭と見られる「水戸城跡出土一括埋納銭」（埋蔵文化財センター所蔵）等の考古資料が231件、水戸出身の横綱・常陸山が現役引退の年に揮毫した「常陸山谷右衛門書「三十六俵天地宏」（市立博物館所蔵）等の歴史資料が91件確認されています。

② 無形文化財

無形文化財は6件が確認されています。現状で確認されている件数は他に比べ少ないものの、弘道館ゆかりの拓本技術を今に伝える「水戸拓」や、1909（明治42）年に創立した石州流水戸何陋会をはじめとする「水戸の茶道」等独自の技法や作法を伝える文化財が多いことが特色です。

③ 民俗文化財

民俗文化財は13件が確認されています。県内で特徴的な棒ささらで使用された「木造三頭獅子頭」（八幡宮所蔵）等の有形の民俗文化財が5件、享保年間（1716～1736年）に起源を持つ銭谷稻荷神社（浜田町）の盆踊りである「水戸盆唄」等の無形の民俗文化財が8件確認されています。

④ 記念物

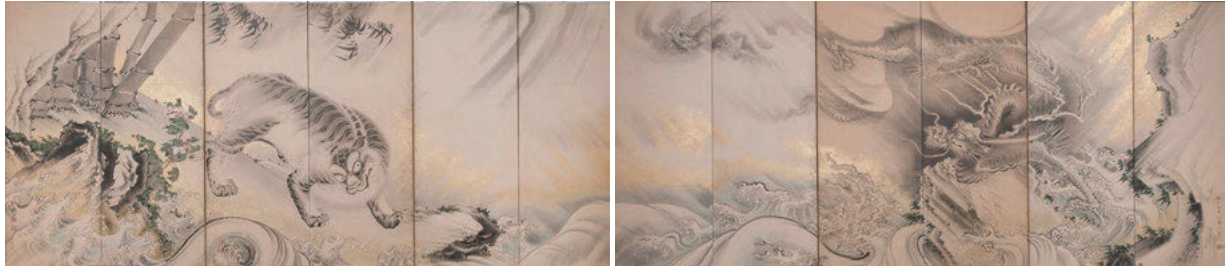
記念物は641件が確認されています。このうち最も多い類型が遺跡（史跡）で、616件と記念物の96%を占めています。主な内訳は、縄文中期の大規模集落遺跡である「環遺跡」（河和田）をはじめとする埋蔵文化財包蔵地（→60ページ）が527件、本市唯一の山城の可能姓が高い「成沢要害」（成沢町）をはじめとする城館が26件（埋蔵文化財包蔵地として周知されている城館を除く。）、「水戸道中」（陸前浜街道起点・水戸道中終点〔本町二丁目〕－銷魂橋〔本町一丁目〕－吉田神社〔宮内町〕－吉田一里塚〔元吉田町〕－熱田神社〔吉沢町〕－長岡宿〔茨城町〕）をはじめとする古代～近世の歴史の道が9件です。

さらには鶏足山塊で産出する金を採掘した「木葉下金山」（木葉下町）、水戸藩付家老中山備前守の大家墓所である「谷中中山家墓所」（松本町）、大正・昭和期の水戸に欠かせない鉄道であった水浜電車の数少ない遺構である「水浜電車軌道跡」（柳町）など、時代・性格ともに多様でユニークな文化財が多いことが特色です。



また、名勝地（名勝）は、「水戸八景」や「^{みとはっけい}河和田八景」等11件が確認されています。

さらに、動物・植物・地質鉱物（天然記念物）として、日本植物公園協会ナショナルコレクションに認定されている「水戸のウメ」（→77ページ）をはじめとする14件が確認されています。



龍虎図屏風(市立博物館所蔵)

龍虎図屏風は、水戸出身の江戸時代の女性画家・櫻井雪保(1754(?)-1824年)が二つの屏風に描いた作品です。左の屏風に虎、右の屏風に龍を描いており、迫力ある作風がよく現れています。江戸時代の女性画家の中では珍しい、大型の作品です。



水戸盆唄(東台)

水戸盆唄は、享保年間(1716-1736年)に始まったとされる銭谷稲荷神社の盆踊りをもとにした民俗芸能です。水戸盆唄保存会が踊りを継承し、発展と普及に努めています。



水戸拓(三の丸)

水戸拓は、徳川光圀・斉昭や藤田東湖など、水戸藩主や藩士ゆかりの文章を彫った版木を使い、拓本にしたものです。明治時代に弘道館内で本の出版を手がけていた北澤家はその技術を伝承しています。



谷中中山家墓所(松本町)

谷中中山家墓所は、水戸藩付家老中山家の第2代当主信正・第4代当主信行とその一族の墓所です。全国でも例のない球形をした墓(信正墓／写真手前)など、独自の墓所形態が見られる貴重な文化財です。



⑤ その他の文化財

地域計画では、その他の文化財（→14ページ）を、次に掲げる7種類に区分し整理しました。

ア 石造物	エ 戦争の記憶	キ 水戸の景観
イ 行事・イベント	オ 民話・伝説	
ウ 特産品	カ 遊び	

一方、先人が残した文化的所産は極めて多様であり、上記7種の区分に収まらない文化財が今後確認される可能性があります。その場合は、適宜区分を追加していくこととします。

ア 石造物

石造物は、地方公共団体によっては建造物、工芸品、考古資料、歴史資料、有形の民俗文化財等に分類されるなど、文化財保護法で定義されている六つの類型（→14ページ）のいずれかに整理することがある文化財です。一方、文化財の調査・研究の中では石造物というジャンルが確立されており、効率的に文化財を把握し、保存・活用につなげるため、地域計画では石造物として整理することとします。

本市の石造物は2,080件が確認されています。「こうしんとう庚申塔」、「こうみょうしんごんくようとう光明真言供養塔」、「こやすかんのん子安観音」といった民間信仰に関連する石造物、「じょうやとう常夜塔」、「どうりょう道標」といった交通に関連する石造物、「あおやまのぶゆきいちぞく青山延于一族の墓」といった墓標、「はたみちくどち播田実地区土地改良総合整備事業記念碑「みつち実土」といった記念碑等があり、時代・性格ともに多様なことが特色です。

イ 行事・イベント

行事・イベントは、地域で行われている催事です。

本市では、1897（明治30）年に始まった「みと うめ水戸の梅まつり」や、1961（昭和36）年に始まった「みと こうもん水戸黄門まつり」等8件があります。いずれも近現代に開始された、比較的歴史の浅い文化財ですが、回を重ねるごとに年中行事化し、歴史的風致の一部となっています。

行事・イベントは、活動母体が市民協働による実行委員会形式をとるなど、活動の継承が担保されているものが多いことから、今後件数の増加が期待される文化財です。

ウ 特産品

特産品は、本市ゆかりの農産物等で生産された水戸ならではの商品で、21件が確認されています。

主な特産品として、水戸名物の「みとなつとう水戸納豆」、「うめぼし梅干し」、「みとしざけ水戸の地酒」等の食品や、「すいふちやうちん水府提灯」、「みとぐろ水戸黒」等の民芸品があります。

特産品の中には、無形文化財や無形の民俗文化財に該当する可能性がある文化財も含まれています。一方、本市の農産物は歴史的に見ても特色の一つであり（→83ページ）、その生産品である特産品は本市ならではの歴史文化を可視化できる文化財と言えます。そのため、地域計画では特産品として整理し、保存・活用を図っていくこととします。



水戸の梅まつり
(常磐町ほか)

水戸の梅まつりは1897(明治30)年に開始された、本市を代表するイベントです。偕楽園・弘道館周辺を会場に民官あげた様々な催しが行われ、水戸の春の訪れを告げる年中行事として、市内外に定着しています。

青山延子一族の墓(松本町・常磐共有墓地)

青山延子は弘道館の初代教授頭取(校長)で、『皇朝史略』などのベストセラーを著しました。延子の子延光・延寿も著名な学者であり、青山家は水戸藩の学問・教育に長けた家として知られました。



水戸黒(本町)

水戸黒は江戸時代に水戸で流行した染物です。藍を下地にして、青みを帯びた深みのある黒が特徴とされています。近代以後に技術が途絶えましたが、市内の染物店で復活させ、技術の継承に取り組んでいます。

エ 戦争の記憶

戦争の記憶は、アジア・太平洋戦争の経験者の証言です。本市では、戦争経験者を「語り部」として募集・登録し、戦争の記憶の継承に努めているところです。

戦争語り部は、2025(令和7)年8月現在で8人が登録され、学校やイベント等で生きた記憶を伝えています。その内容は、「北京からの引揚げ」、「水戸空襲」、「予科練」、「シベリア抑留」など、いずれも戦時下の地域の様相を伝える貴重な文化財と言えます。

しかし、終戦から80年を経た現在、語り部は減少の一途をたどっており、当時の生きた記憶が失われつつあります。そのため、証言のアーカイブ化を進めるなど、戦争の記憶の保存・活用の在り方の検討が急務となっています。

オ 民話・伝説

民話・伝説は、75件が確認されています。

「ダイダラボウ 貝を食べた話」等の巨人に関連するもの、「一盛長者」等の八幡太郎義家(源義家)に関連するもの、「お手植えの桜」等の徳川光圀に関連するもの、「身代わり名号」等の親鸞に関連するもの、「雷様の箱宮」等の農業に関連するものが多いのが特色です。いずれも本市の歴史をよく反映している文化財と言えます。



宮下銀座(宮町)

宮下銀座は、かつて「御宮下」と呼ばれた水戸東照宮そばの商業地が発展した商店街です。昭和の雰囲気を残すレトロな景観が人気を博し、飲食店や洋品店、寄席など多彩な店舗が軒を連ねています。
※2025年6月にアーケードは撤去されています。



オセロ

オセロは、水戸発祥のゲームです。終戦間もない1945(昭和20)年9月に、本市出身の長谷川五郎(1932-2016年)が、旧制水戸中学(現在の水戸第一高等学校)に在学中に発明しました。本市では、様々な大会やイベントを通してオセロを楽しむ機会を提供しています。



雷様の箱宮(黒磯町)(イラスト:内原郷土史義勇軍資料館所蔵)

雷様の箱宮は、ある時村人が雨乞いの際に、誤って禁じられていた箱宮の蓋を開けてしまい、中から雷様が出て水害を起こしたという昔話です。雷様を鎮める際に唱えたとされる「五か村念仏」が加茂神社(黒磯町)に伝わっています。

カ 遊び

遊びは、水戸ならではのゲームや娯楽です。水戸発祥のボードゲームである「オセロ」及び、1979(昭和54)年に制定され、こどもに広く普及している「水戸郷土かるた」の2件の文化財が確認されています。

キ 水戸の景観

水戸の景観は、市民が発見した水戸らしい景観で、49件が確認されています。

法定6類型の一つである文化的景観に近い文化財の類型ですが、文化的景観が「人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」と定義されているのに対し、水戸の景観は特に要件を定めず、市民が「水戸らしい」と直感的に感じた景観であることが特色です。

具体的には、「心安らぐ田園風景 in 赤尾関」をはじめ1991(平成3)年に公募・選定した「平成版内原の景色10選」が10件、「大塚池公園」をはじめ1996(平成8)年に公募・選定した「新水戸八景」が8件、「宮下銀座」をはじめ2020(令和2)年に公募・選定した「あなたが見つけた水戸の景観」が30件あり、いずれも本市の地形・地質や歴史を反映した景観です。



3 関連する制度

(1) 日本遺産

① 制度の概要

日本遺産 (Japan Heritage) は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。

ストーリーを語る上で欠かせない魅力あふれる有形や無形の様々な文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

② 認定機関

文化庁

③ 本市の認定遺産

ア 認定ストーリー

近世日本の教育遺産群
—学ぶ心・礼節の本源—

イ 認定年月

2015 (平成27) 年 4月

ウ 認定遺産の概要

・ストーリー

我が国では、近代教育制度の導入前から、支配者層である武士のみならず、多くの庶民も読み書き・算術ができ、礼儀正しさを身に付けるなど、高い教育水準を示しました。これは、藩校や郷学、私塾など、様々な階層を対象とした学校の普及による影響が大きく、明治維新以降のいち早い近代化の原動力となり、現代においても、学問・教育に力を入れ、礼節を重んじる日本人の国民性として受け継がれています。

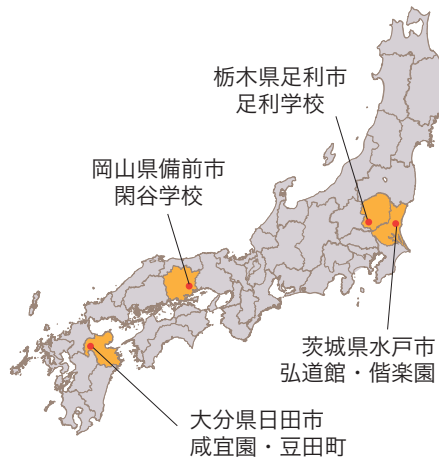


図2-1 資産の位置

近世日本の教育遺産群は、4県4市にまたがる19件の文化財で構成されるストーリーです。こうした複数の市町村にまたがってストーリーを展開するものを「シリアル型」と呼んでいます。

	名称	指定等の状況	概要
水戸市	きうこうどうかん 旧弘道館	国特別史跡・国重要文化財	江戸時代最大の藩校
	ときわこうえん かいらくえん 常磐公園 (偕楽園)	国史跡及び名勝	学問の合間に人々が修養する場
	きうみ としやうこうかんあと 旧水戸彰考館跡	未指定 (遺跡)	大日本史編纂の地
	にっしんじやくあと 日新塾跡	市史跡	北関東最大の私塾
	だいにほんし 大日本史	未指定 (歴史資料)	徳川光圀が編纂を命じた歴史書
足利市	あしかががつこうあと 足利学校跡	国史跡	日本最古の学校
	こくほうかんせき らい きせいぎ 国宝漢籍『礼記正義』 しよしよせいぎ もんぜん しやうえきちやうそ 『尚書正義』『文選』『周易注疏』	国宝 (書跡)	貴重な漢籍の宝庫
	せきてん 釋奠	市民俗文化財	孔子を称える儀式

表2-4-1 日本遺産「近世日本の教育遺産群」構成文化財一覧 (2025 (令和7) 年 8月現在)



	名称	指定等の状況	概要
備前市	せうしげつたにがっこう 旧閑谷学校	国特別史跡・国宝・国重要文化財	現存する世界最古の庶民のための公立学校
	せきさい 枳菜	未指定(無形の民俗文化財)	孔子を称える儀式
	びぜんくにわ けぐんい たむらのぶほら けもんじょ 備前国和気郡井田村延原家文書	未指定(古文書)	閑谷学校を支えた様子を記す資料群
	くまざわほんざんたくあと 熊沢蕃山宅跡	市史跡	学者熊沢蕃山隠居の地
	せいでんあと 井田跡	市史跡	閑谷学校経営の基盤となった田
日田市	かんぎ えんあと 咸宜園跡	国史跡	江戸時代最大規模の私塾
	ひ た し ま め だ ま ち 日田市豆田町	国重要伝統的建造物群	咸宜園を支えた学園都市
	ひろ せ たんそうきやうたくおよ ほか 廣瀬淡窓旧宅及び墓	国史跡	廣瀬淡窓の生家と歴代塾主の墓所
	ちやうふくじほんどう 長福寺本堂	国重要文化財	咸宜園教育の出発点
	けいりんえんあと 桂林園跡	未指定(遺跡)	咸宜園の前身である私塾
	かんぎ えんかんけいれきし しりょう 咸宜園関係歴史資料	未指定(歴史資料)	廣瀬家に残る咸宜園関係の資料群

表2-4-2 日本遺産「近世日本の教育遺産群」構成文化財一覧(2025(令和7)年8月現在)



足利学校(栃木県足利市/国史跡)



閑谷学校(岡山県備前市/国特別史跡)



咸宜園(大分県日田市/国史跡)



弘道館(茨城県水戸市/国特別史跡)

日本遺産「近世日本の教育遺産群」主な構成文化財

世界に類を見ない階層を超えた教育が行われた近世日本の学びの場が、日本各地に建てられた藩校・郷学・私塾などの学校です。足利学校・閑谷学校・咸宜園・弘道館は、その中でも我が国を代表する教育遺産です。



(2) 重要湿地（生物多様性の観点から重要度の高い湿地）

① 制度の概要

環境省は、近年の「生物多様性の確保」に対する重要性の意識向上、第5次「生物多様性国家戦略2012-2020」における基本戦略としての位置付け、ラムサール条約湿地の大幅な増加を通して、湿地保全の重要性が一般に認識されつつあることから、地域住民等が湿地の重要性を認識し、湿地保全・再生への取組が活性化することを目指し、2016（平成28）年度に「日本の重要湿地500」の見直しを行い、633の湿地を選定しました。

② 選定機関

環境省

③ 本市の選定重要湿地

ア 選定湿地

千波湖

イ 選定年月

2016（平成28）年4月

ウ 選定湿地の概要

生息・生育域	生物分類群	選定理由
千波湖及び周辺湧水	淡水魚類	都市部近郊地域にあって、ホトケドジョウなどの生息地

表2-5 重要湿地 選定湿地一覧(2025(令和7)年8月現在)



千波湖

千波湖は市街地にありながら、オオハクチョウ、キンクロハジロ、ミコアイサ、クイナといった様々な水鳥のほか、昆虫類、四季折々の花など自然を満喫できる貴重な湿地が残っています。



(3) 水戸市地域文化財

① 制度の概要

本市は、市民が地域に対して誇りと愛着を持つとともに、認定した文化財を将来の世代に引き継ぎ、又は語り継いでいくことができるような環境を醸成することを目的に、2018（平成30）年3月に「水戸市地域文化財制度」を創設し、地域で守り伝えられてきたかけがえない文化財を「水戸市地域文化財」として認定しています。

② 認定者

水戸市教育委員会教育長

③ 認定文化財

種別	名称	所在地	管理者	認定年月日
史跡	河和田城跡	河和田町	水戸市	2019年3月20日
無形民俗文化財	薬師堂の民間信仰資料群	上国井町	上国井自治会薬師樹林を再生する会	2019年3月20日
名勝	保和苑	松本町	水戸市	2020年3月11日
建造物	満蒙開拓幹部訓練所 事務棟・講義棟	鯉淵町	鯉淵学園農業栄養専門学校	2022年3月22日
歴史資料	木村家住宅 水戸空襲遺構 (附焼夷弾1点)	上水戸	個人	2022年3月22日
天然記念物	見川小学校のシダレザクラ	見川	水戸市	2022年3月22日
有形民俗文化財	見川一本松の供養塔	見川	住みよい見川をつくる会	2023年3月23日
無形民俗文化財	向井町の散々楽	元山町	向井町散々楽保存会	2023年3月23日
彫刻	木造 如意輪観音坐像	内原町	江川鹿島神社氏子会	2024年3月22日
歴史資料	D51形515号蒸気機関車	千波町	水戸市	2024年3月22日
無形文化財	水戸の座敷舞	八幡町	一般社団法人水戸芸能士協会	2025年3月19日
史跡	親鸞聖人御田植の伝承地	飯富町	個人	2025年3月19日

表2-6 水戸市地域文化財 認定文化財一覧(2025(令和7)年8月現在)

認定した市地域文化財は12件あります。

有形文化財は、満蒙開拓政策の重要な国内施設であった「満蒙開拓幹部訓練所 事務棟・講義棟」として建造物が1件、江川地区で守り伝えられた中世仏「木造 如意輪観音坐像」として彫刻が1件、昭和20年の水戸空襲で罹災した焼け跡が残る「木村家住宅 水戸空襲遺構（附焼夷弾1点）」等の歴史資料が2件あります。

無形文化財は、水戸の花柳界におけるお座敷文化を今に伝える「水戸の座敷舞」が1件あります。

民俗文化財は、見川地区の地蔵講、子安講、庚申講等の民間信仰に伴い造立された「見川一本松の供養塔」として有形の民俗文化財が1件、赤沼山薬師寺に伝わる民間信仰資料等を一括認定した「薬師堂の民間信仰資料群」等の無形の民俗文化財が2件あります。



保和苑(松本町／市認定名勝)

水戸藩第2代藩主徳川光圀がこの庭園を愛したのがはじまりで、1926(大正15)年、地元有志により整備され保和苑と名付けられました。園内には約100種6,000株のあじさいが咲き誇ります。



**木村家住宅 水戸空襲遺構(附焼夷弾1点)
(上水戸／市認定歴史資料)**

1945(昭和20)年8月2日の水戸空襲の痕跡を留める一室です。洋室の天井に焼夷弾が貫通した穴と、壁面に油脂の燃えた跡が現存しています。



見川小学校のシダレザクラ(見川／市認定天然記念物)

推定樹齢300年のシダレザクラです。現在の幹は孫生えと見られます。徳川光圀お手植えの伝承があり、地域から愛されるサクラです。



D51形515号蒸気機関車(千波町／市認定歴史資料)

1941(昭和16)年製造の機関車で、常磐線等で1970(昭和45)年まで運用されました。常磐線で活躍したD51機関車では現存唯一の車両です。



水戸の座敷舞(八幡町／市認定無形文化財)

江戸時代から昭和中期頃まで隆盛した水戸のお座敷文化を後世に伝える伝統芸能です。芸妓から舞・三味線の技を伝授された者を「舞方」として登録し、活動を続けています。

記念物は、中世江戸氏の支城のうち最大の規模を有する「^{かわわ だじょうあと}河和田城跡」として遺跡(史跡)が2件、徳川光圀が愛したとされる庭園「^{ほわえん}保和苑」として名勝地(名勝)が1件、推定樹齢300年で、徳川光圀がお手植えをしたという伝承を有する「^{み がわしょうがっこう}見川小学校のシダレザクラ」として動物・植物・地質鉱物(天然記念物)が1件あります。



市地域文化財制度は、有形・無形の民俗文化財や近現代の所産になる文化財を幅広く認定しており、緩やかな認定基準及び規制によって、所有者にとっても保存・活用がしやすいことから、近年、指定文化財と同等のペースで件数を伸ばしています。文化財の保存・活用の裾野を広げる上で、重要な役割を果たしています。

(4) 風致地区

① 制度の概要

風致地区は、都市における風致（都市において自然的な要素に富んだ土地における良好な自然的景観）を維持するため、都市計画法に基づいて定める地域地区で、樹林地や水辺地、郷土意識の高い土地などの自然的な要素と一体となって良好な景観の形成が望まれる地区です。

この制度は、1919（大正8）年に制定された旧都市計画法により、都市の風致の維持、都市の自然的景観を維持・保全するため創設された、我が国で最も歴史が古い地域地区制度の一つです。

② 決定機関

水戸市（都市計画決定）

③ 本市の風致地区

名称	決定・変更年月	面積 (ha)	風致保全方針
三の丸風致地区	1933年4月	約56.0	水戸城跡や旧弘道館をはじめとする歴史的資源と調和した景観 斜面地及び一団の斜面樹林地と調和した景観
	1968年2月	45.7	
	1976年3月	46.9	
千波風致地区	1933年4月	256.0	千波湖、桜川、沢渡川などの水辺地、桜川緑地をはじめとする緑地と調和した景観 斜面地及び一団の斜面樹林地と調和した景観 常磐公園や偕楽園（好文亭）をはじめとする歴史的資源と調和した景観 千波湖を中心とした眺望景観
	1968年2月	245.9	
	1976年3月	308.6	
笠原風致地区	1976年3月	47.0	逆川緑地と周辺の斜面地及び一団の斜面樹林地と調和した景観 逆川や笠原水源地などの水辺地と調和した景観 笠原水道や笠原古墳群などの歴史的資源と調和した景観
八幡風致地区	1976年3月	26.6	斜面地及び一団の斜面樹林地と調和した景観 保和苑などの水辺地と調和した景観 水戸八幡宮などの寺社等の歴史的資源と調和した景観
愛宕風致地区	1976年3月	26.5	斜面地及び一団の斜面樹林地と調和した景観 曝井などの水辺地と調和した景観 愛宕神社や愛宕古墳などの歴史的資源と調和した景観 歴史的資源や住宅地の背後の樹林地と調和した景観
長者山風致地区	1976年3月	41.1	斜面地及び一団の斜面樹林地と調和した景観 田野川の水辺地と調和した景観 寺社などの歴史的資源と調和した景観
常磐風致地区	1976年3月	42.5	沢渡川緑地や斜面地などの一団の樹林地と調和した景観 沢渡川などの水辺地と調和した景観

表2-7 風致地区一覧(2025(令和7)年8月現在)

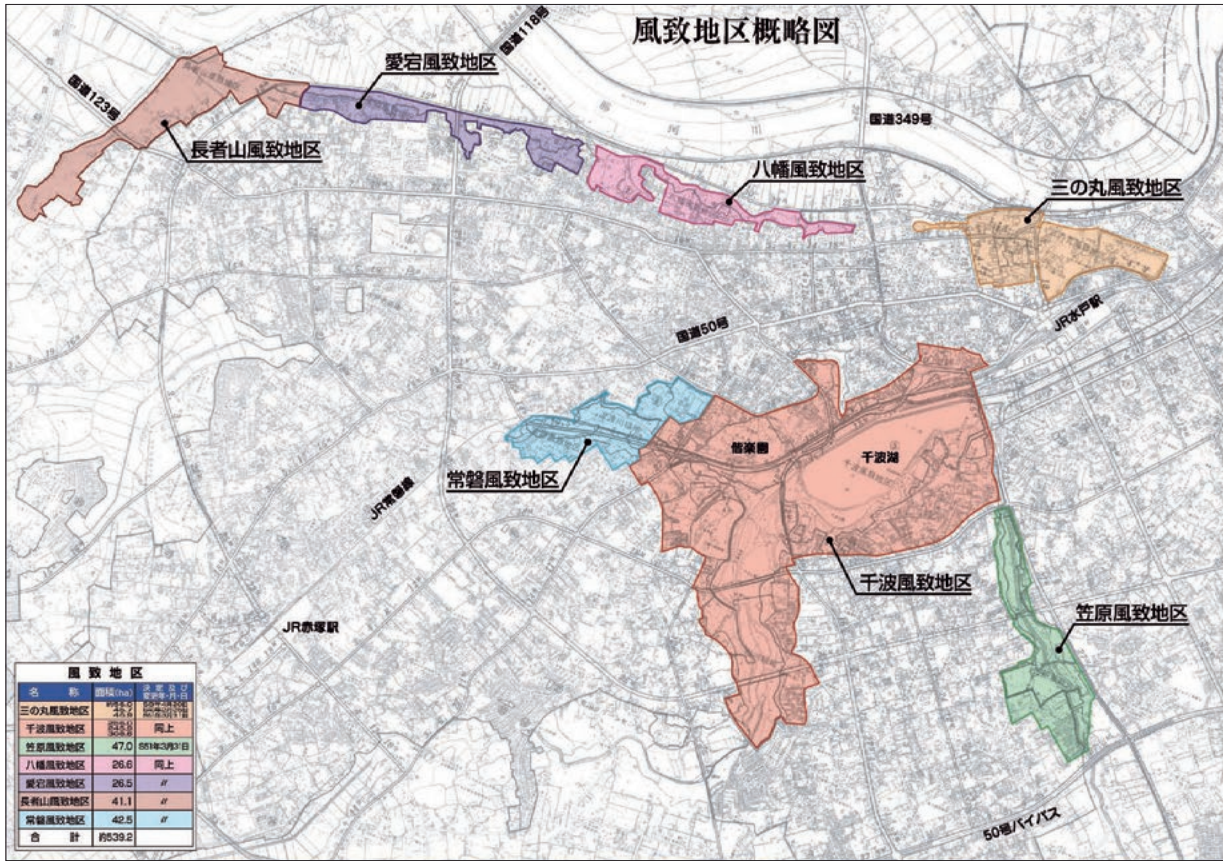


図2-2 水戸市の風致地区

旧都市計画法に基づき1930(昭和5)年に認可された水戸市都市計画区域において、1933(昭和8)年に三の丸風致地区及び千波風致地区を定め、その後、1976(昭和51)年に笠原風致地区、八幡風致地区、愛宕風致地区、長者山風致地区及び常磐風致地区を定めました。三の丸及び千波風致地区は90年以上、それ以外の風致地区は約50年にわたって、地区ごとの歴史的資源等と調和した、特徴ある景観が維持・保全されてきました。

(5) 景観重要建造物

① 制度の概要

景観重要建造物は、地域の景観上重要な建造物（建築物及び工作物）について、景観法に基づき、景観行政団体の長が指定し、地域の個性ある景観づくりの核として、その維持、保全及び継承を図るものです。

② 指定者

水戸市長

③ 本市の景観重要建造物

名称	指定日	指定の理由となった外観の特徴
水戸城大手門、二の丸角櫓、土堀及びその敷地	2021年12月	明治期に失われた水戸城大手門、二の丸角櫓及び土堀を復元整備したものである。これら建造物は、水戸城内の景観を形成する重要な要素であるため、遺構や史資料を基に意匠や構造を復元し、より城全体の価値を高められるよう、往時の姿に蘇らせることを主たる目的として整備したものである。

表2-8 景観重要建造物 指定建造物一覧(2025(令和7)年8月現在)



水戸城大手門、二の丸角櫓、土塀及びその敷地

水戸城は石垣を持たず、土塁と堀で構成された中世以来の城です。2020(令和2)年から翌年にかけて大手門、二の丸角櫓、土塀が土塁上に復元され、歴史的景観が飛躍的に向上しました。

(6) プロジェクト未来遺産

① 制度の概要

本制度は、「地域の“たからもの”を未来の子どもたちに伝えたい」という想いのもと、未来へと継承していくための地道な努力を続ける“人”と“活動”に光を当て、応援するものです。

市民による草の根の活動を日本ユネスコ協会連盟が「プロジェクト未来遺産」として登録することで、次世代を含む個人や企業、行政による理解と協力や様々なつながりを生み出し、さらには日本全国に運動の輪を広げていくことを目指しています。

② 登録団体

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟



③ 本市の登録遺産

遺産名	登録年度	団体名	内容
水戸の歴史資産“偕楽園と弘道館”の魅力を子どもたちに伝える活動	2012年度	偕楽園公園を愛する市民の会	水戸市民の誇りである偕楽園、弘道館は歴史と自然の宝庫である。このプロジェクトでは8団体が協働で偕楽園、弘道館の更なる活用と発展を考え、市内の歴史と自然を学び、風致と梅を守り後代に伝えると共に、新しい魅力を創出することを目的としながら活動している。

表2-9 プロジェクト未来遺産 登録遺産一覧(2025(令和7)年8月現在)



弘道館 やさしい論語塾

第15代将軍徳川慶喜らが学んだ重要文化財建造物を会場にして、親子向けの論語講座が市民活動団体により継続されています。

(7) 土木学会^{せんしゅう}選奨土木遺産

① 制度の概要

土木学会選奨土木遺産の選奨制度は、土木遺産の顕彰を通じて、歴史的土木建造物の保存に資することを目的として2000（平成12）年度に創設されました。

同学会では制度の普及により、次に掲げる項目を促すこととしています。

社会へのアピール（土木遺産の文化的価値の評価、社会への理解等）／土木技術者へのアピール（先輩技術者の仕事への敬意、将来の文化財創出への認識と責任の自覚等の喚起）／まちづくりへの活用（土木遺産は、地域の自然や歴史・文化を中心とした地域資産の核となるものであるとの認識の喚起）／失われるおそれのある土木遺産の救済（貴重な土木遺産の保護）

② 選奨団体

公益社団法人土木学会



③ 本市の選奨土木遺産

遺産名	選奨年度	内容
大手橋	2010年度	藩政時代の様式を継承しつつ鉄筋コンクリート造りの橋として架け替えられたもので、水戸城址通りの拠点として親しまれている。
水戸市水道低区配水塔	2014年度	鋼製水槽を内蔵する鉄筋コンクリート造りの水道配水塔で、外壁には装飾が施され、近代水道にかける市民の思いが込められた施設である。

表2-10 選奨土木遺産 選奨遺産一覧(2025(令和7)年8月現在)



大手橋(三の丸)

1935(昭和10)年に建設されました。煉瓦積み・鉄筋コンクリートといった当時の最新技術を導入しつつ、江戸時代以来の木造橋の意匠を残した貴重な土木遺産です。

(8) 日本植物園協会ナショナルコレクション(植物遺産)

① 制度の概要

日本植物園協会は、2017(平成29)年7月より「野生種、栽培種にかかわらず、日本で栽培されている文化財、遺伝資源として貴重な植物を守り後世に伝えていく」ことを目的に、ナショナルコレクション制度をスタートしました。審査に合格したコレクションを貴重な植物遺産「日本植物園協会ナショナルコレクション」として認定し、情報を公開し、コレクションの橋渡しをすることで、長期間安定した保全を推進しています。

② 認定団体

公益社団法人日本植物園協会

③ 本市の認定コレクション

コレクション名	認定年月	機関名	内容
水戸のウメコレクション	2024年3月	市植物公園・ 県都市整備課	本コレクションは、水戸にちなんだ伝統ある品種、文化や歴史的な由来のある品種、花や枝などの形質に特徴がある品種等からなる130品種である。江戸時代の文化や歴史、文献や梅図譜で紹介された古典的な品種を多く保有、保存、公開しており、江戸時代のウメを知り、保全する上で重要なコレクションである。

表2-11 日本植物園協会ナショナルコレクション 認定コレクション一覧



つきかげ
月影



とら
お
虎の尾



れっこうばい
烈公梅



しろなにお
白難波



やながわし だれ
柳川枝垂



こうなんしょむ
江南所無

水戸の六名木

偕楽園内に咲くウメの中でも、花の形、香り、色などが優れているウメを「水戸の六名木」と呼んでいます。

(9) 日本100名城・続日本100名城

① 制度の概要

本制度は、日本を代表する文化遺産であり、地域の歴史的シンボルでもある城郭、城跡を多くの人に知ってもらい、関心を高め、ひいては地域文化の振興につながることを目的に設定されました。日本城郭協会により2006（平成18）年2月に「日本100名城」が選定され、2017（平成29）年3月には「続日本100名城」が選定されました。100名城、続100名城スタンプラリーは、近年の城郭ブームの原動力となっています。

② 所管団体

公益財団法人日本城郭協会

③ 本市の認定城郭

城郭名	種別	選定年月	内容
水戸城	日本100名城	2006年2月	徳川御三家の居城となった日本最大規模の土造りの城

表2-12 日本100名城 認定城郭一覧(2025(令和7)年8月現在)



水戸城跡 三の丸堀・土塁
(三の丸/県指定史跡)

三の丸堀は幅約30メートル、比高差約14メートル、土塁延長240メートルを測る大規模な空堀で、当時の城郭遺構の景観をよくとどめています。